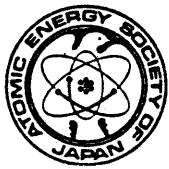


250部



日本原子力学会・炉物理連絡会



炉物理連絡会ニュース (No. 8)

1987年11月25日発行

目次

1. 第30回「NEACRP会合」報告	1
2. 「核融合炉工学国際シンポジウム I S F N T」案内	2
3. 「International Conference on Nuclear Data for Science and Technology」案内	2
4. 第38回「炉物理連絡会」議事要旨	3
5. 東大・原施短期研究会「技術フロンティアと量子工学」案内	3
6. 「Specialists' Meeting on In-Core Instrumentation and Reactor Core Assessment」案内	4
7. 「International Shielding Conference」案内	4
8. 「Reactor Physics Topical Meeting」案内	4

1. 第30回 NEACRP会合報告

第30回NEACRP会合は、9月14日より18日まで、フィンランドのヘルシンキ市のフィンランド技術研究センターで開催された。Executive sessionでは、前回会合のサマリーの採択から始まり、前回において約束された各国代表の行為について報告があった後、NEACRPに関係の深い国際会議の予定が紹介された。また、関連事項としてJEFの作成、評価の状況が報告された。次に、第31回会合は日本で開催することとし、議長にPNCの白方氏、副議長にスイスのP. Wydler氏が選出された。

Technical sessionでは、New topicsとCarried over topics について論文発表討論があった後、

各国の研究活動の報告があり、意見の交換がなされた。このsessionでのA論文の発表総数は34件であるが、その中10件は日本からのものであり、日本の活動の重みが認識された。

次回NEACRP会合について、次のトピックスが決定された。

(1) New topics

- 1) Advanced FBR Core Design Studies
- 2) Physics Aspects of TRU Burning by Reactors and Accelerators
- 3) γ -Energy Deposition (Critical experiments, Power reactor, γ -Production data, etc)

- 4) Actinide Monitoring Method
- (2) Carried over topics
 - 1) Validation of Fission Product Data
 - 2) Reactor Design Innovation to Increase Inherent Safety for Fast and Thermal Reactors
 - 3) Recent Results from Operating Reactors
 - 4) Reactivity Effect of Fuel Fragmenta-

- tion in Light Water Cooled Reactors
- 5) Integral Validation of Recent Delayed Neutron Data
- 6) HCLWR Results
- 7) Measurements and Calculations of Void Coefficients

日本原子力研究所 金子 義彦

2. 「核融合炉工学国際シンポジウム I S F N T (International Symposium on Fusion Nuclear Technology) 」

標記会合が、原子力学会およびプラズマ・核融合学会主催で、1988年4月10日～19日東京プリンスホテルで開催される。当シンポジウムは、核融合炉工学の諸領域を網羅した国際会議としては我が国で初めてのもので、この分野における最近の進歩についての情報交換、重要課題についての議論および国際協力を含めてそれら課題を解決する方策を探る場として期待される。

4月11日～15日が各国の国策を含む下記の7項目についての論文発表に当てられ18日、19日がワークショップとなっている。

- 1) ブランケット工学
- 2) 第1壁工学
- 3) 高熱束機器
- 4) トリチウム処理システム
- 5) 核融合炉工学のためのモデルと実験
- 6) システムの設計と解析
- 7) 修理・保守

論文総数は150編程度で口頭発表とポスターセッションが並列で行われる。炉物理関係は、核設計と共に5)に含まれ国内外から23編の発表が予定されている。(原研、中村和夫)

3. 「International Conference on Nuclear Data for Science and Technology 」

標記の会合が1988年5月30日～6月3日に茨城県水戸市の水戸プラザホテルで開催されることは、前号でお知らせした通りである。すでに第2次案内が配られ、発表論文の募集が行われた。10月9日までに届いた申し込み件数は全部で288件(内36件は招待講演)になっている。この後、論文のアブストラクトが11月5日に切られ、続いて論文選考、プログラム決定等を

行う。

現在、出席予定者数は約290名となっており、その半数以上が外国からの出席予定者である。論文数や出席予定者数から見て、前々回、本会合の一環としてアントワープ(ベルギー)で開いた会合同程度の規模になるものと期待される。日本で初めて開く核データ国際会議であり、会合の成功を期待したい。

なお、現在、第3次案内を準備中であり、10月末に発送する予定である。本会合についての

より詳しい情報を知りたい方は、原研核データセンターまで連絡されたい。(原研 中川庸雄)

4. 第38回「炉物理連絡会総会」議事要旨

日時 昭和62年10月3日(土) 12:00~13:00

場所 北大 工学部

議事

1. 第19回炉物理夏期セミナー報告が行われた。
2. 上記セミナーの収支報告が行われた。
3. 炉物理夏期セミナーテキストの学会での売上金を今年度より炉物理連絡会の収入でなく古橋基金の収入に計上することにした。
4. 次年度幹事校を九大(神田幸則先生)にお願いすることになった。
5. 編集委員会の報告が行われた。学会30周年記念号の内容について案があれば編集委員(名大 山根先生他)に伝えてほしい。
6. 企画委員会報告が行われた。次の年会は東工大で昭和63年4月4、5、6日に開催される。発表は原則としてOHPを使用することになる。

7. 連絡会誌の原稿を募集している。10月10日までに案を出してほしい(東大中沢先生まで)。
8. 国際会議の予定が報告された。主なものは次のとおりである。
Fusion Nuclear Technology(東京昭和63年4月)核データ国際会議(水戸昭和63年5月末)マンマシンインターフェイス(東京昭和63年2月)なお、今月(62年10月)には臨界安全セミナー(東京)、多目的原子炉利用会議(グルノーブル)、SMORN-5(ミュンヘン)が開催される。
9. 技術フロンティアと量子工学の研究会が12月3日東大・原施で開催される。
10. KUCA実験授業報告が行われた。
11. 計算機による会員相互通信の試みを行っていることが報告された。

5. 東大・原施短期研究会「技術フロンティアと量子工学」のご案内

表記会合を原子力学会・炉物理連絡会との共同にて下記の通り開催することとなりました。是非ともご参加下さいます様お願い申し上げます。ご参加頂けます場合は担当者宛ご連絡下さい。

担当者 東大・工・原子力工学科、中沢正治

03(812)2111 内6972

東大・原子力工学研究施設、古田一雄

0292(82)1611

プログラム

日時 12月3日(木) 10時~16時

場所 東大・工・原子力工学研究施設研修室

開会の挨拶 炉物理連絡会委員長

仁科浩二郎(名大)

10時10分 「知識工学と炉物理」

古田一雄(東大)

11時10分 質疑応答、およびコメント

コメンター(交渉中)

12時	昼食		
13時	「核燃料サイクルから見た炉物理」	14時30分	「全体討論、炉物理の新展開に期待 すること、及び新技術の方向性など」
	笹尾信之 (動燃)		
14時	質疑応答、およびコメント「量子工 学とは？」	中沢正治 (東大)	16時 閉会
			司会 仁科浩二郎 (名大)

6. Specialists' Meeting on In-Core Instrumentation and Reactor Core Assessment (OECD/NEACRP, 炉心の計測と特性評価専門家会議) について

開催：1988年9月7日～10日

仏、カダラッシュ

会議の主なトピックス

- ・炉心特性評価に係わるセンサ技術、雑音解析
- ・センサ信号による炉心特性 (出力分布な

ど) 解析、評価技術

日本より6編の論文をノミネートしている。

問い合わせ先：

原研 東海研 原子炉工学部
原子炉計測研究室 荒 克之 氏
(0292-82-5345)

7. International Shielding Conference Bournemouth, UK September 12-16 1988

状況

現時点(10月16日)でまでcall for paperは届いていないが、250wordsのabstractの締切が1987年12月15日、NEA DATA BANK宛となっている。

1988年2月12日にprogram committee がLondon で開かれる予定。

採択された論文はcamera ready form にして

1988年7月30日までに提出することになっている。

問い合わせ先：

原研 東海研 原子炉工学部
遮蔽研究室 鈴木友雄 室長
(0292-82-5355)

8. Reactor Physics Topical Meeting について

開催：1988年9月18-21日

Wyoming, JacksonにてANS主催

内容：炉物理研究における現状および新しい応用分野が全てカバーされます。

申込み：発表希望者は500～1500words のsummary を1988年2月26日までに、Full

Paper を同6月1日までにANL WestのH. F. Farlane氏あて送ること。

問い合わせ先：阪大・工・原子力工学科

竹田敏一 助教授

(06-877-5111-5072)